



高原の自然館ニュースレター

# 苜尾電波塔

第 12 号

2004. 12. 1

高原の自然館

苜尾（かりお）とは、広島県芸北町にある山の名前です。

一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつけています。

## も く じ

### おしらせ

- 高原の自然館は冬季閉館期に
- 八幡湿原再生協議会が開催
- 『苜尾』の原稿を募集

### 活動報告

- 冬鳥の観察会
- 木の実と冬芽の観察会
- 千町原に草原を呼び戻そう！

### 観察会案内

- アニマルトラッキング

### 花だより

- ヤドリギの仲間

## おしらせ

### 高原の自然館は冬季閉館期に入りました

(2004.11.26)

次回開館は2005年4月25日です。今シーズンも、本当にありがとうございました。なお、2005年1月16日にはアニマルトラッキングを計画しておりますので、ぜひご参加ください。

### 八幡湿原再生協議会が開催されました

(2004.11.7)

「八幡湿原再生事業」における検討協議会が11月7日13:00より、芸北町民文化ホールにて開催されました。近藤会長としらかわが委員として出席した他、会員の方も6名が傍聴しました。

### 【第一回八幡湿原再生協議会 議事録】

<http://www.pref.hiroshima.jp/kaigi/kankyoyahatashitsugen/gjjiroku041107.pdf>

### 『苜尾』の原稿を募集しています (2004.11.26)

西中国山地自然史研究会の『苜尾』の原稿を募集しています。内容は西中国山地の自然や動植物に関する情報や自然に関わる活動報告、自然賛などで、600～1600字程度にまとめてください。写真を大歓迎します。あなたの見つけた小さな発見を、会員のみなさんにも伝えてください。

## 活動報告

### 冬鳥の観察会

開催日時：11月7日（日）7：00～  
講師：上野 吉雄  
主催：西中国山地自然史研究会  
協力：高原の自然館、芸北町民文化ホール

11月の朝7：00というと、かなり気合いを入れての観察会参加になると思いましたが、熱心な方々25名でした。初めの一時間は大歳神社の裏で、霧でまだ、鳥たちもお休み中なのか、寝言か早起きさんかと思われるかすかなさえずりが聞き取れるかな？てかんでした。滝平に移動してからは声はもちろん、レンズに入れて「先生、観てください」「あそこにアトリの集団が…」とバードウォッチングはみんな同じ方向を向いて…といういつものスタイルで、次の観察会を控えていたので、鳥観察参加組のみ、居残り後ろ髪を引かれる終了でした。

#### 【大歳神社裏で観察された鳥】

カシラダカ（声）・アトリ・カワラヒワ・ジョウビタキ・スズメ（幼鳥）

#### 【滝平で観察された鳥】

シジュウカラ・ツグミ・マミチャジナイ・ノビタキ・アトリ・ホオジロ・モズなど



早朝にもかかわらず、25名の参加あり



寒さ対策もばっちり



声はすれども姿はガスの中におぼるげ



移動する. がよくわからない. ちょっと困った. 「まだ早いですね.」と先生.



正しいバードウォッチングの姿勢



あの茂みにアトリが…とみんな一斉にそちらに構えて



みんな代わりばんこにレンズをのぞかせてもらう



「あの、松のむこうのあそこ」とレンズに入れる



こっちはツグミ こっちはホオジロ…とか

## 活動報告

### 木の実と冬芽の観察会

開催日時：11月7日（日）9：30～

講師：斎藤 隆登

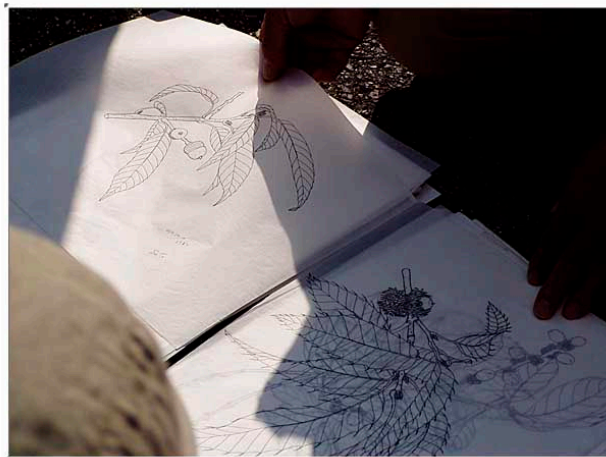
主催：西中国山地自然史研究会

協力：高原の自然館、芸北町民文化ホール

冬鳥より引き続きの参加者，新規参加者ありで，16名でした．今年の実の付きが悪く，木の実云々はなく，もっぱら，冬芽のみ．忙しくて斎藤先生のコピーができなかった図を見せていただいたり，参考本の紹介をしていただいたりと暖かくなってきて観察会日和．資料の図を見ながら説明を受けたり，細かく小さく，レンズでのぞぎ込んで毛の具合をみたり，葉痕や托葉痕を観たり，花芽・葉芽を観たりとかなり細かい難しい観察会でした．

#### 【観察した植物】

コナラ・コブシ・ナナカマド・ナツツバキ・イロハカエデ・オオシマザクラ・アズキナシ・エゴノキ・ノリウツギ・キハダ・サワフタギ・ミズキ・ウワミズザクラなど



コピーが間に合わなかった原版を見せていただく



図を書く際の注意点道具の説明もあり



この時間は日差しも暖かくなってきて，鳥より引き続きの方，新規参加の方などが参加



コナラの冬芽は夏から付いている．枝先に4・5個5cmくらいの冬芽



オオシマザクラの冬芽には毛がない  
(ソメイヨシノの冬芽には毛がある)



クリは三角おむすびがある、二列互生



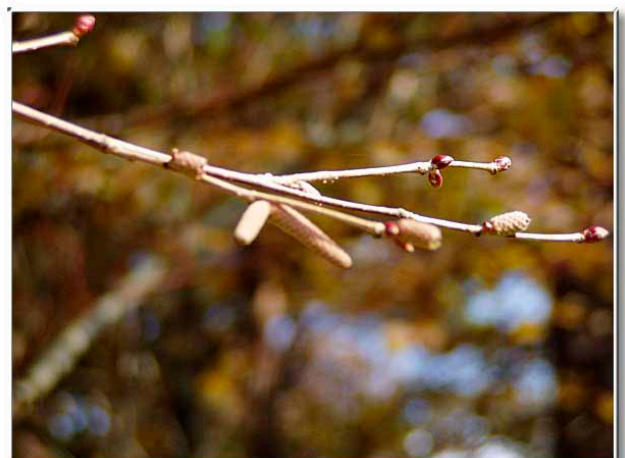
エゴノキは冬芽が二段構えになっているので、ぱっとみてわかります、と人の教えてあげてください…



ウワミズザクラの特徴は枝痕があることです



ノリウツギは葉痕に特徴がある、葉の痕が接近している、波打つ維管束痕



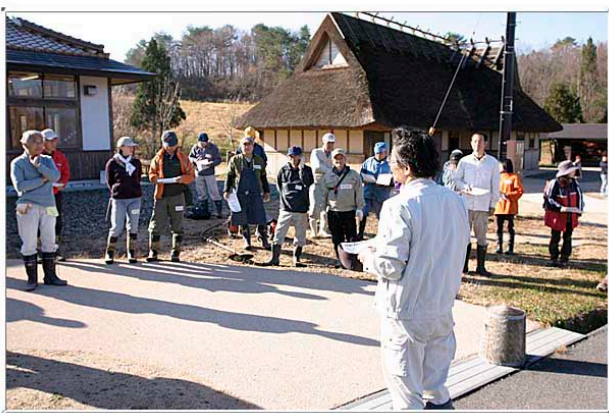
ハシバミの雄花・雌花・葉芽

## 活動報告

### 千町原に草原を呼び戻そう！

開催日時：11月23日（火）9：30～  
主催：西中国山地自然史研究会  
協力：高原の自然館，芸北町民文化ホール

2004年11月23日，千町原の空は雲一つ無い晴天に恵まれました。集合場所の高原の自然館には，9:00前からぼつりぼつりと人が集まってきました。どの人も，作業着に草刈り機やチェーンソーを携え，やる気は満々です。川内会長の挨拶，しらかわからの説明が済み，いよいよ開始となると，ぐんぐんと作業が進んでいきます。「仕事は多人数」と地元の坂井さんがつぶやいていました。今日が最後の営業日となるかりお茶屋にお願いしたお昼ご飯は舞茸ご飯と豚汁。これも好評のようでした。午後からはチェーンソーを使って樹木も伐採。はじめに考えていたほどには進みませんでした。千町原の丘の上に立って見おろす景色は，作業前の風景とはかなり違っているようでした。何より，伐採作業に参加されたみなさんにとって，千町原の草原が「意味のある風景」として目に映るようになったようです。飲み物の準備，作業工程，伐採した木や草の処理方法など，計画者の方で至らなかった部分が目につきましたが，これは次回への課題としたいと思います。まずは，千町原を草原にしていくための第一歩。小さな一歩ですが，大きな意味のある一歩を43人の参加者・本部・炊き出し・記録係のみんなで踏み出しました。



はじめに，地元を代表して八幡地区ふるさと自慢運動推進協議会 会長の川内さんからご挨拶。



整然と進む刈払い隊



三人がかりでノイバラの大株に挑む。



かき集め作業開始！



大勢でやると、すごい力になる



こうして運ばれたススキは、たい肥にされ、八幡高原野菜になる。まさに循環型環境保全のはじまり。



お昼までの間に、草の山がこんなにできた。



最後はみんなで運び隊。切り倒した樹木を一カ所に集めた。何度も往復して、どんどん木が集まってくる。



お昼は山麓庵で舞茸飯と豚汁。みんなで食べる仕事飯がウマイ。



まとめをすることは、太陽は大きく西に傾いていた。

## 観 察 会 案 内

## 花 だ よ り

### ● アニマルトラッキング

今年もやります、アニマルトラッキング！  
自然館もヤマネもコテングコウモリも（おそらく）ツキノワグマも、冬眠に入ってしまったが、キツネやタヌキ、ノウサギは活発に活動しています。夏には観察が難しい動物も、足跡や糞など、活動の痕跡（トラック；track）を見れば、どんな活動をしているのかが良く分かります。これも降り積もった雪のなせる技、冬ならではの観察会です。防寒対策をしっかりとって参加してください。

開催日時：2005年1月16日（日）9：30～

講師：畑瀬 淳

集合場所：高原の自然館

準備：防寒着、長靴やかんじきなど雪の上を歩ける履き物、弁当、水筒、筆記用具、双眼鏡など

定員：30名（必ず予約をしてください。）

参加料：1,000円（ただし、会員は無料）

植物はすっかり葉を落としましたが、今が見頃のものもあります。

### 【ヤドリギの仲間】

落葉樹がすっかり葉を落としたころ、木の中に丸いものが見えると、それはたいていヤドリギです。これまで芸北町には「ヤドリギ」と橙色の実をつける「アカミヤドリギ」があることが分かっていたのですが、近ごろ三種目のヤドリギが見つかりました。「ホザキヤドリギ」は黄色い実を穂状に付け、冬には葉を落とすヤドリギです。春には実が落ちてしまい、夏には他の木の緑に埋もれるので、見つけるなら今が適期でしょう。

### － インターネット版の紹介と購読移行のお願い－

苅尾電波塔はe-mailでも発行されています。印刷版と同じ情報が毎月あなたのメールアドレスに届きます。パソコンでe-mailをお使いの方ならどなたでも無料で申し込みができます。まずは高原の自然館ホームページ、メールマガジンのコーナーをご覧ください。また、ホームページからダウンロードできるpdfファイルは、郵送している紙版に比べ、鮮明なカラー写真を見たり印刷したりすることができます。そこで、高原の自然館では紙版（郵送）からインターネット版への購読移行をお願いしています。今後、紙版の郵送が不要な方は、高原の自然館までご連絡ください。みなさまのご協力をお願いいたします。

【高原の自然館】<http://town.geihoku.hiroshima.jp/nature/>

また冬がやってきました。今年は少し雪が遅いようですが、雪の有無に関わらず、自然館は春までおやすみです。『高原の自然史』や『苅尾』の編集、展示の準備、ホームページの充実と、やりたいことはいっぱいです。

苅尾電波塔は毎月発行されますのでご心配なく。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

### 高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡芸北町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

[nature@town.geihoku.hiroshima.jp](mailto:nature@town.geihoku.hiroshima.jp)